

未普及解消に向けた新技術の紹介

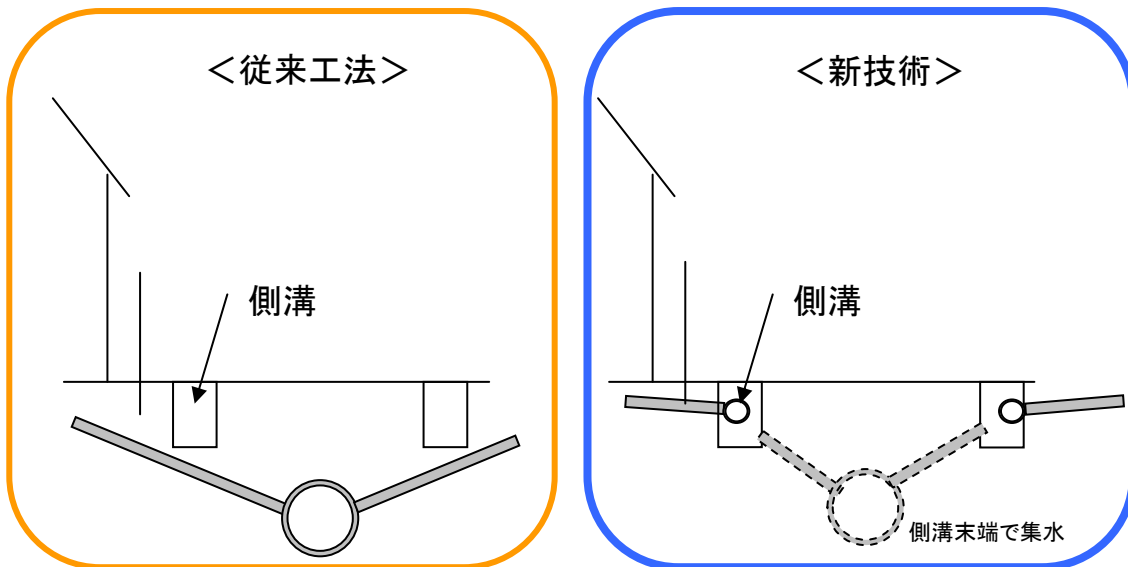
1. 技術名称

側溝を活用した下水道管渠施工（仮称）

2. 技術の概要

下水道の未普及を解消するためには、下水道管渠を低コストに施工すること、下水道管渠の日施工量を増やすこと、地元住民の協力が得やすいこと等が必要である。

本技術は、既に整備されている雨水や雑排水を排除するための側溝（もしくは新設される予定の側溝）を有効活用し、側溝の中に下水道管渠を布設することで、安く、早く、また通行止め等の交通支障なく施工しようとするものである。

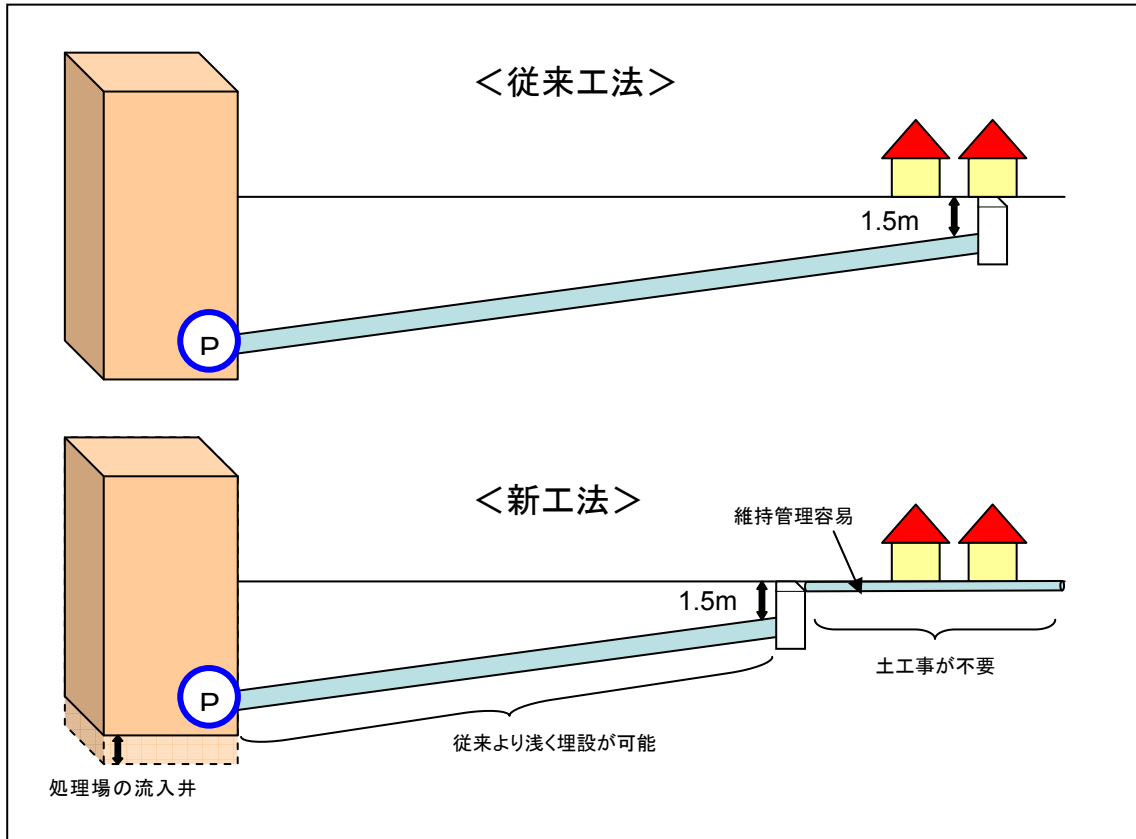


3. 当該技術の特徴

本技術は、既存の側溝に管渠を布設しようとするものであり、次の特徴を有すると考えられる。

- ① 土工事が不要
側溝に管渠を敷き流すため、土工事が発生しない。
- ② 施工が容易
埋設工事ではないため、重機の使用がなく、作業上の制約も少ない。
- ③ 埋設物協議・移設が不要
埋設工事ではないため、面倒な埋設物協議や移設が不要である。
- ④ 管渠全体の埋設深を浅くできる
末端管渠を浅くすることで、本管の埋設深度を浅くできる。またその結果、処理場の流入井も浅くできる。
- ⑤ 既存施設の有効利用が図れる
下水道の整備により既存側溝に余裕が発生し、その余裕を活用することから有効活用に繋がる。また、新たな用地の確保・占用が必要ない。
- ⑥ 維持管理しやすい

地上から管渠の不具合を発見できる上、修繕がしやすいため、維持管理性に優れる。



4. 懸案事項

本技術の適用にあたり検討すべき事項は次の通りである。

- ① 側溝管理者との協議が必要
- ② 雨水排水の取扱いについて検討が必要
- ③ 適正な管渠勾配が確保できるか確認が必要
- ④ 取付管との接続について確認が必要